

0歳からの立腰・体幹遊び他日本再生国民運動

当別町 × 公益社団法人マナーキッズプロジェクト

(登録団体：公益社団法人マナーキッズプロジェクト)

取組概要

日本の子供・若者の憂慮すべき現代的課題をこのまま放置していいのだろうか？運動不足が深刻、姿勢が悪い、食生活の変化、残念な社会現象→いじめ、暴力行為、不登校、学級崩壊等。各自治体が主体になって、「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会兼講座を開催した後、保育園等で毎日の立腰タイム、授業の始めと終わりの挨拶、学校生活において身体活動量を増やすこと等を通して体幹を鍛える等。



実施する事項

基本情報

代表地方公共団体等	当別町
代表民間団体等	公益社団法人マナーキッズプロジェクト
他の連携団体等	NPO法人ふれ・スポ・とうべつ
カテゴリ	教育プログラム・学力向上 健康増進 ふるさと納税・企業版ふるさと納税
事業費	2023年度20万円

<p>目指すSDGsゴール</p>	 
<p>事業化までの期間</p>	<p>2023年4月～2024年3月、以降も継続実施。</p>

取組内容



モデル第 1 号当別町新聞掲載記事

<p>この取組で解決した課題</p>	<p>日本の子供・若者の憂慮すべき現代的（社会的）課題は、当別町でも例外でないので、公益社団法人マナーキッズプロジェクトと連携して、体力の向上、いじめ、不登校、暴力行為、骨折、発達障害、アレルギー、学力の向上、医療費の削減について、目標値を設定して取り組む。</p>
<p>解決に向けた手法</p>	<p>当別町では、未就学児の教育に力を入れているが、令和 5 年 8 月 31 日、町内の認定こども園「おとぎのくに」「当別夢の国幼稚園」において、マナーキッズ立腰・体幹遊び教室を開催した。</p> <p>公益社団法人マナーキッズプロジェクトの田中日出男理事長が、立腰（椅子の座りかた）、日本の伝統的な美しい姿勢、挨拶の仕方、くまさん遊び等の体幹を鍛える遊びを指導した。</p> <p>マナーキッズ立腰・体幹遊びを保育士、教諭、保護者が日常的に実施できるよう、「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会（保育士他対象）兼講座（保護者対象）のオンデマンド配信（立腰、体幹遊び、日本の伝統的な姿勢・挨拶、「マナーキッズ」調べ、健康の鍵は5歳くらいまでに決まる腸内細菌という食と健康）の受講を呼び掛けている。</p> <p>また、自己肯定感を高めるため、連携団体の日本再生てらこや・全国ネットワークがオンライン配信の親子てらこや教室の受講を呼び掛けている。</p>

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	公益社団法人マナーキッズプロジェクトは、全体的な推進役と現地での指導を担当した。
地域関係者との連携方法	NPO法人ふれ・スポ・とうべつは、当別町との折衝、現地でのこども園との折衝他を担当した。 当別町内の認定こども園「おとぎの国」「当別夢の国幼稚園」が協力した。 地元の北海道新聞が取材し、記事を掲載して頂いた。
資金調達方法	企業版ふるさと納税を活用した。
資金調達方法の補足	内閣府承認の事業名称は、当別町まち・ひと・しごと創生寄付活用事業に関連する行った法人に対する特例 町議会承認の年月日は令和5年6月23日
事業推進上の課題・工夫	当別町は、未就学児教育に力を入れているので、理解を得られ、地方創生応援税制を活用した0歳からの立腰・体幹遊びと日本の心を伝える諸活動連携日本再生国民運動のモデル第1号として実施することが出来た。 保育士、教諭、保護者向けの「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会兼講座のオンデマンド配信受講者を如何に増やすか、また、日本再生てらこや・全国ネットワークがオンライン配信している親子てらこや教室の受講者を如何に増やすかが今後の課題である。

担当者のコメント

公益社団法人マナーキッズプロジェクトは、今までに47都道府県、台湾、マレーシアにおいて、延べ170万人を超える園児、児童が参加しているが、26年経過して、内閣府地方創生応援税制を活用した0歳からの立腰・体幹遊びと日本の心を伝える諸活動との連携日本再生国民運動に辿りついた。

モデル第一号の当別町に続く市町村を次の通り、発掘している。

令和4年度は、0歳からの立腰・体幹遊び講師養成講習会兼講座の開催を、全国市長会社会文教委員会加盟市町村、教育再生首長会議加盟自治体に呼掛け、北海道当別町、千歳市、新潟県新発田市、茨城県常総市、山梨県甲府市、埼玉県本庄市、和光市、桶川市、群馬県藤岡市、大阪府東大阪市、大東市、和歌山県新宮市、愛知県豊田市、春日井市、高知県高知市、山口県周南市、福岡県豊前市他の「後援」を得て開催した実績があるので、今度は、企業版ふるさと納税を活用して、自治体が主体となって開催するよう呼び掛けている。



田中日出男理事長写真

また、SDGs 未来都市宣言都市にも呼びかけている。

問い合わせ先

団体名称	公益社団法人マナーキッズプロジェクト
部局名	理事長、事務局
氏名	田中 日出男、二木孝治
電話番号	0333396535
eメールアドレス	office365@mannerkids.or.jp

優良事例応募項目

応募にあたっての記載事項

■地方創生SDGsの視点

日本の若者の憂慮すべき現代的（社会的）課題をそのまま放置していいのだろうか。

運動不足が深刻、姿勢が悪い、食生活の変化、残念は社会現象、その上、諸外国の若者に比べて、自己肯定感を肯定的に捉えている比率が低い傾向にあると指摘されている。

「0歳からの立腰・体幹遊び」の実施後の効果は次の通りである。

立腰教育の成果・・・やる気がおこる、集中力がつく、持続力がつく、行動が俊敏になる、内臓の働きがよくなり、

健康的になる、精神や身体のバランス感覚が鋭くなる、身のこなしや振る舞いが美しくなる。

子供の体幹を鍛える研究は、東京都教職員研修センター・早稲田大学スポーツ科学学術院からの報告は次の通り。

・立位姿勢は、頭と首の位置が後ろに動き、猫背傾向が改善、座位で「良い姿勢」の児童が増加。体幹が鍛えられ、

座った姿勢に気を付け意識が働く、姿勢の良い小学生は自己抑制が高い傾向、中・高校生は学習が楽しいと感じている傾向。

「マナーキッズ」を市民科授業に取り入れて（品川区立浜川小学校）

・学習・生活規律が身についている児童は、身につけていない児童より、一年間で大きく学力が向上した。

日本体力医学会大会の発表（上武大学教授，筑波大学名誉教授 大森肇他）

・3歳児に週3回、3か月の模倣運動を行った結果、運動した群は、しない群より言語検査得点の伸びが大きかった

地方創生を活用した0歳からの立腰・体幹遊びと日本の心を伝える諸活動との連携日本再生国民運動により、上記課題克服の第一歩としたい。

■ステークホルダーとの連携

当別町、NPO法人ふれ・スポ・とうべつとの連携、地元こども園他との連携。

■モデル性、波及性

担当者のコメント参照